

デジタルトランスフォーメーション(DX) による西宮市指定文化財の見える化

農学研究科・教授 石井弘明

事業概要

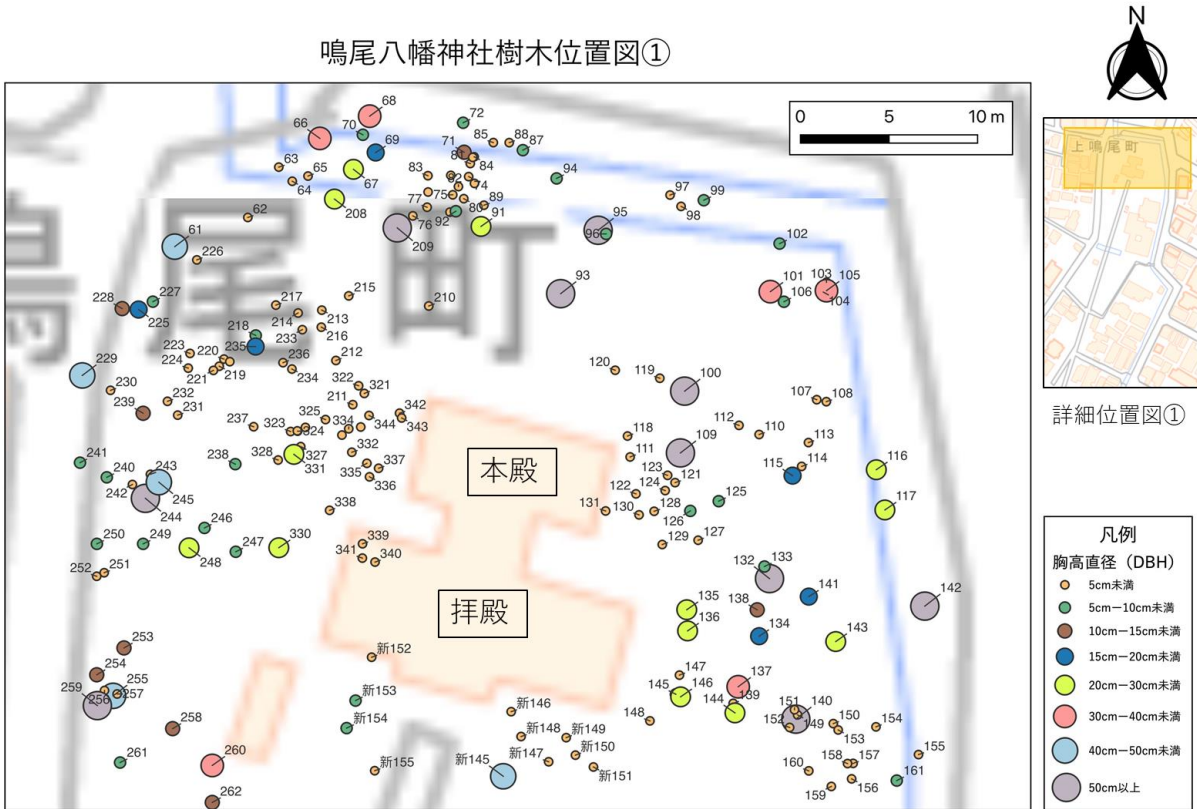
本研究の目的は、指定文化財（天然記念物および建造物）を3次元デジタルデータとして保存し、その情報を文化財の保全と管理のために活用すると同時に、インターネットを通じて文化財の立体映像等を公開し、認知度を高め、その価値を広く理解してもらうことである。

2023年度は西宮市内および神戸市内において、文化財指定されている木造建築周辺の樹木のGPS測量を行い、地理情報システム（GIS）上に座標化した。さらに、西宮市の天然記念物に指定されているクスノキ保護木2個体を、ドローンを用いて映像を撮影するとともに、これをインターネット公開用に編集し、3次元デジタルデータに変換、保存した。

現地調査



GPSによる樹木座標の測量



鳴尾八幡神社（景観保護樹林）の樹木地図

今後の展望

今後は残る3本の保護木についても、撮影とデジタル化を行う。また、他の自治体との連携も進めており、神戸市内の天然記念物についても同様の調査、デジタル化を行う計画が進行中。将来的には、保護木や天然記念物に限らず、市街地の街路樹なども含むすべてのグリーンインフラのデジタルアーカイブ化を目指す。

デジタルアーカイブ化



ドローンを用いた海清寺の大クスおよび大市八幡神社の大クス（西宮市指定天然記念物）の撮影